

理研会報

発行 理科研究部
印刷 事務局
成田小学校
成田市幸町948-1

平成十一年度 全国教研 参加報告

千代田中学校 佐久間 香苗 しました。

全国教研に参加して

まず、全国教研ではレポートの

全国教研に参加することにな 多さに圧倒されました。小学校、
り、自分には荷が重いなと感じま 中学校、高校の提案をいくつかの
した。しかし、理科の研究は四街 討論の柱に沿って行いました。五
道市の理科部会の先生方で協力し 七の提案の後、まとめて討議を
て創り上げたもので、しつかに するため、分科会の討議の流れに
り提案しなければならぬという ついてはなかなか雰囲気をつかむ
気持ちもありました。私のレポ ことができず戸惑ってしまいました。
ト提案時間は十分間という短い 時間の提案発表に際しての討議さ
間でした。また、その場でマイク れた内容は総合的な学習をどのよ
を持って提案するという形でし うに進めていったらいいのか、理
た。主張したい論点や、知らせた 科教育の中で、できることは何で
い実践に絞るようにとアドバイス あるかが話し合われました。千葉
をいただきましたが、伝えたいこ 県の研究は綿密な計画を立てて検
とは多く、あれもこれもと言いた 証していく研究である点が興味を
いことばかりだったので、うまく 持たれました。また、レポートの
まとめることができず、限られた 中には地域の自然に目を向けたも
時間の中で、多くの先生方の前で のが多く、自然体験をとり入れて
きりと自分の言いたいことが伝 いく、大切さが議論されました。
えられなかったように思います。 また、環境を中心としたレポート
また、多くのレポートを発表する が多く、総合的な学習のための教
ため、レポートのページ数が決め 科発展型のカリキュラムの実践が
られていたり、資料も多く提示す 報告されました。これからの理科
ることができなかったため、私た 教育では、次の世代を生かすため
ちが作成したショートプログラムの 科学を考えていかなければなら
も限られた数のみの提示となつて ないこと、また、科学のプラス面

とマイナス面をきちんと考えるこ
とが必要である等の意見が出され
ました。

分科会では、多くの意見を聞く
ことができ、また、実践報告も多
彩で大変勉強になりました。ま
た、いろいろな意見があり考えさ
せられることが多かった。何
故理科教育が必要なのか」「理科
で何を伝えなければならない
のか」「理科の基礎基本とは何
か」「自分自身考えたことがなか
ったことを深く追求している先生が
いました。また、自分では、「こ
れだ」と考えていたことが本当に
「これで良いのか」と再度考える
ことなどたくさんありました。

一つ一つのレポートをしつくり
検討する時間がなかったことが残
念なことでした。自分の提案した研
究についての意見をもっとほしい
と感じました。しかし、多くの授
業実践は大変参考になりました。
全国には、いろいろな考え方を
持った人がたくさんいました。い
ろいろな考えの意見を多く聞くこ
とができて勉強になりました。

これからも、自分自身もつと勉
強し、自分のため、何よりも未
熟な自分を生徒のためにも頑張
る担っていかなくてはならないと感
じました。明日からの授業にこの全
国研で得たことを是非生かしてい
たいと思いました。貴重な体験を
させていただきました。ありがと
うございました。

特集

「私の授業実践」

四街道市立旭小学校 都築 昌一
単元名 おもりの動きと働き
(五年) さとの関係を調べる。

授業実践をするにあたり、次の
ような仮説を立てた。

◎授業実践の様子

一、身近なものを素材とし、教
材化していけば、自分の思
いや考えを持って意欲的に
活動するだろう。

二、子ども同士で活発に情報交
換し合う場を持てば、自分
の考えを深めるだろう。

三、子ども一人ひとりの考えを
生かすような支援をすれば
意欲的に問題解決に取り組
み科学的な見方や考え方が
育つだろう。

この単元について、児童は生活
の中でターザンロープやメトロノ
ームなど、振り子のような動きを
見ている。また、衝突に関し
ては、キックベースなどの遊びを
通して、動いている物が衝突した
時に感じる力の大きさが物の動く
速さや物の重さに関係しているこ
とを体感している。

この単元の導入では、今まで漠
然としていた体験をもつ一度見つ
めさせ、考えさせたい。その中で
問題を明確にし、物の動きや衝突
について調べるようにする。まず
ボールをキックしたりするなどし
て衝突に関しての意欲付けを図つ

◎気づいたこと(児童)

・ボールが遠くへとぶのと同じ仕
組みでスピードがあつたりした方が
遠くへ転がったりするのがよくわかる
・全部、力を入れたり重くした
らよくとんだ。
・スピードがあればあるほどビー
玉がよくとんだ。

・ボールを使って実験した時「勢
いをつける、力一杯蹴る」と言っ
ただけ、ビー玉も同じだ。
・このことから、動く速さと重さ
が関係していることや、問題把握
の活動や話し合いと関連させて
話し合いが行われていることが分
かると、失敗して学ぶ場合もあ
るだろうし、ふせいだ方がよい場合
もあるだろう。そのあたりの「支
援」が曖昧であった。実践を重ね
ることで、明確にしていきたい。

編集後記

理研会報 二百七十五号をお
届けいたします。

今回は、「全国教研参加報
告」と「私の授業実践」を掲
載いたしました。

より一層、充実した内容の
ものにしていき、会員の先生
方に少しでも身近な存在であ
る『理研会報』を心掛けて努
力してまいりたいと思ってお
ります。ご協力、よろしくお
願いいたします。

*投稿等につきましては、各
部会部長にお尋ねください。